



おおつ  
滋賀県 大津市教育委員会

## 学習保障 & 学力補充に eライブラリ ～ 朝学習・委員会活動・家庭学習と、日常的な活用へ～

大津市では「次代を生き抜く力を育みます」という基本方針のもと、ICTを効果的に活用した教育の推進を進めています。今回は推進実践校でのeライブラリの活用と、大津市としての今後の展望について取材しました。

### ■ 帯時間を個別最適な学習の時間に

大津市立瀬田南小学校



▲ 学習メモ機能で計算しながら答え合わせ

瀬田南小学校では昼の15分間の帯時間にeライブラリを使った学習を行っています。この日は算数のテストの返却とふり返りを行いました。

児童はテストで間違えた問題をeライブラリの教材から自分で選んで学習します。先生は再テストが必要な児童に対して個別指導を行っていました。

この15分間を「個別最適な学習」の時間にするこ  
とで、着実に児童の学力向上につながっていくと感じ  
ました。

### ■ 異学年の教え合いで高まる自己有用感



▲ なぜ×だったのかを一緒に考えます

「学ぶ意欲を引き出す集団作り」の取り組みとして実施している、学力アップ委員会では、5、6年生が3年生以下を対象に勉強会を開催しています。

間違えた問題を指して「このグラフの1メモリはいくつだと思う？」と上級生が下級生に投げかけをしながら考えを引き出し、正解すると拍手をして一緒に喜ぶ姿が見られました。

**学びたい児童が主体的に学ぼうとする姿と、異学年の交流活動における上級生の自己有用感の高まり**から、笑顔も多く、良い雰囲気の中で進んでいました。

### インタビュー

#### 学ぶ意欲と学習集団の基盤づくりに向けて

本校では児童の**自己存在感や自己有用感を高め、居心地の良い学校作り**に努めています。その一環として特別活動の充実を図り、児童が運営する学力アップ委員会を設立しました。eライブラリは解答がすぐにわかり、児童も操作や機能に慣れ親しんでいるため、委員会活動内でも**学年を超えた学び合いが実現しています。**

eライブラリは**児童の学ぶ意欲を高め、自ら進んで学習する環境を実現してくれます。**今後も家庭学習や持ち帰りなど選択肢を増やし、児童が自学していく力をつけるために必要な支援を行っていきたいと思います。



情報化リーダー 中出 裕己 先生 (左)  
校長 小野澤 稔香 先生 (右)



▲画面の色を自分仕様にカスタマイズしています

**ねらい** 自分のペースで課題に向き合う

南郷中学校では今年度からプリントに変わり、タブレットで朝学習を実施しています。事前に教科と単元は指定されていますが、**問題の難易度は自分で決めて取り組んでいます。**

じっくりと基本の問題に取り組む生徒や、次々と挑戦問題をテンポよく進めていく生徒など、この**10分間を余すことなく自分のペースで取り組む姿**が見られました。

**インタビュー** 生徒の学びに向かう姿勢に変化



情報リーダー  
湯浅 充裕 先生

タブレットが生徒一人一台に導入されてからまだ数か月ですが、**生徒の学びの姿勢の部分で大きな変化を感じています。**生徒が勉強を苦手と感じる要因の一つとして、一定のスピードで進んでいく授業についていけないという部分がありましたが、eライブラリは**自分のペースで自分に合わせたレベルの問題に取り組めるので、わからない部分をふり返り、主体的に学べるようになりました。**また、これまで授業で挙手が少なかった生徒が、eライブラリで予習や復習を行ったことで、**自信を持って手を挙げて発信してくれるようになったりと、意欲的に授業に向かう生徒が増えている**と実感しています。今では校内だけでなく家庭学習の利用も増えています。それは生徒自身が学力的な効果を実感し、学ぶ意欲が増えている成果だと感じています。



校長  
澤田 浩二 先生

**インタビュー** 学習保障としてのeライブラリの役割



大津市では、昨年度の新型コロナウィルスの感染拡大防止措置による全校一斉の臨時休業時に、**子どもの学びを止めずに継続させたいと思い、学習保障の観点からオンラインでも学習ができるeライブラリを採用しました。**そしてGIGAスクール構想により、タブレット端末が児童生徒に配備されたことで、eライブラリの活用がより日常的なものへと変換しました。そして多くの学校で**校内での活用増加に伴い、家庭学習の利用数も増加しています。**それは各学校が基礎学力の定着や、家庭学習への繋がりから、**児童生徒の学習保障や学力補充に繋がるという手ごたえを感じて取り組んでいる成果**だと思います。

eライブラリは習熟度別という、**児童生徒の実態に応じて個別最適化された学習ができる**という点で必要な教材であると感じていますし、**教員の校務の効率化**という面でも効果的であると感じています。

社会の多様化・複雑化が加速するこれからの社会を生き抜く子どもたちには、研究指定校を中心としながら、ICTやeライブラリを効果的に活用した研究を進め「学びに向かう力、人間性等」を育成していきたいと考えています。



大津市教育委員会 学校ICT支援室  
本間 郷史 指導主事(左) 中野 啓一 室長(中)  
竹澤 健太郎 指導主事(右)